第１号

日付　2018 年 5 月 24 日

発行者：渡辺克己

上智大学理工学部経営者の会　通信

□　インド通信　（　　号）
■　東北通信　　（　２号）
□　大阪通信　　（　　号）
□　東京通信　　（　　号）

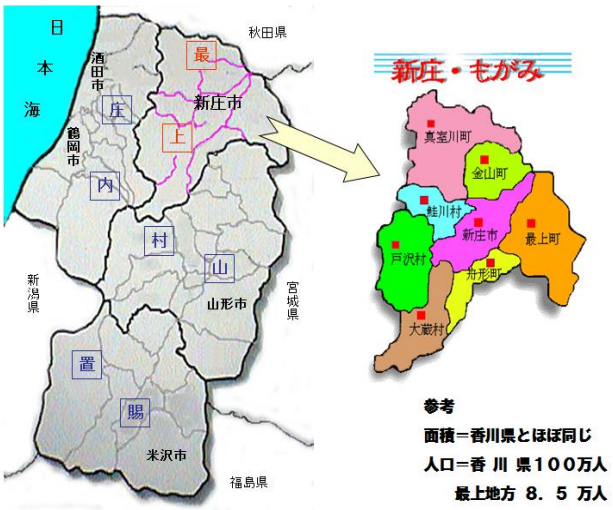
●近況

この度、私は、山形航空電子㈱の社長を退任し、本社勤務となりましたので、東北通信２号を配信させて頂きます。

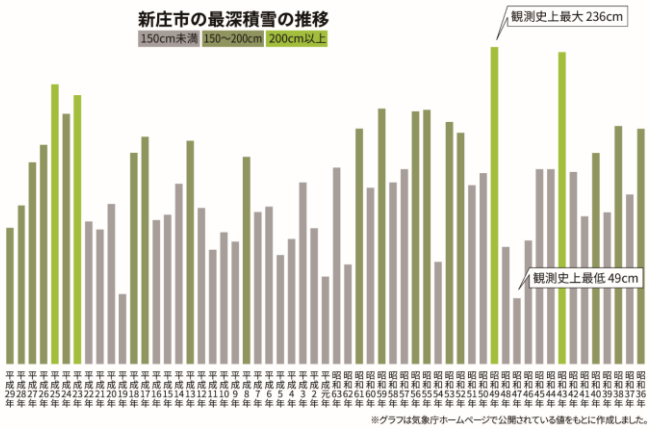
今年３月末を以って、通算１０年９か月山形県新庄市での山形航空電子㈱勤務に終止符を打ちました。第一回目は、1994 年７月～1997 年６月の３年間、小職は技術部長を務める傍ら、家族５人で子供たち３人が幼稚園、小学校、中学校に通いました。第二回目は、2010 年７月～2018 年３月の７年９か月、社長として単身赴任をしておりました。

●新庄市

山形県は４つの地域がそれぞれ、違った気候、風土、歴史、方言を持つ特色のある地域で構成されています。まず、県庁所在地の山形市がある「村山地域」、新潟県、福島県に隣接する米沢市のある「置賜地域」、日本海に面する酒田市、鶴岡市のある「庄内地域」、新庄市のある県内で最も豪雪地帯の「最上地域」は、香川県と同じ面積で１市、４町、３村で構成されています。山形県民の言葉は県外者からは、山形弁と云われますが、厳密には山形弁は存在せず、「村山弁」、「置賜弁」、「庄内弁」、「新庄（最上）弁」とやはり４つに区分され、地域が違えば同県人でも言葉が通じないことがあります。



【山形県の４地域と最上地域の市町村】



【新庄市の最深積雪の推移～気象庁のＨＰより～】

●新庄市の積雪量

東北通信１号（２月１２日）で報告した通り、NHK の全国ニュースで『山形新庄：現在の積雪量 170cm、今後の 12 時間の積雪量 60cm』との報道がありましたように、新庄市は有数の豪雪地帯であります。

積雪の多い日は、午前３時頃からそれぞれの自治体で除雪車が出動して、積雪による交通トラブルでの出勤時間の遅れは皆無であります。上記の気象庁のＨＰによると昭和 36 年から平成 29 年（56 年間）の新庄市の積雪量を、観測史上最高：236 ㎝（昭和 49 年）、同最低：49 ㎝（昭和 47 年）で、例年、１月～２月は 150 ㎝～200 ㎝の積雪があるのがふつうであります。

雪とは無縁であった東京生まれの小職が豪雪地帯に住んだ経験として、幾つかの留意点があります。必須のスタッドレスタイヤは、走行距離が少なくタイヤの溝が残っていても時間が立つと劣化（硬化）してしまうので、賞味期限は４年程度で交換が必須。自動車タイヤの泥除けは雪が詰まるので不要。ワイパーも雪用の頑丈なものに交換する必要があります。運転する際は、長靴を履いて運転するとたいへん便利です。一晩で 60 ㎝降るのは日常茶飯事なので緊急脱出用に車内には、雪掃き用ブラシ、スコップを装備、フロントガラズの解凍スプレーなどを準備しておくことが必須です。

●月山

月山（標高 1,884m）は、手付かずの自然が今も多く残されている国内でも貴重なエリアです。私は春のスキー、ブナの新緑の観察、夏の月山登山、秋のえも言われぬ紅葉の美しさ、冬のスノーシュー（西洋かんじき）トレッキングなどで通算で３０回以上訪れています。山形県は、この美しい月山の自然を残すために、月山の麓に「県立自然博物園」注）設置して、県外や登山経験の無い人にも気軽にこの素晴らしい自然を学び、地球環境の維持、自然保護を目的に、姥ケ岳の山麓、石跳川の沢沿いを中心に野外自然学習施設として開園されました。注）県立自然博物園：http://gassan-bunarin.jp/

この「県立自然博物園」の約 245 ヘクタールにも及ぶ広大な園内にはブナの原生林が広がり、樹齢 200 年にもなるブナの大木やミズナラ、カエデ、トチなどが林立し、ブナの果実を餌とする小動物も多く棲息しています。また、森には野鳥も多く棲息し、新緑の頃にはウグイス、ホオジロ、オオルリ、シジュウカラ、ホトトギスなどを観察することが出来ます。

博物園の森では、残雪に映える新緑、生物たちの命輝く夏、錦色に燃える紅葉、純白の雪と静寂の世界・・など、四季それぞれの自然の美しさに接する事ができます。散策の拠点になる来訪者のためにガイドが常駐し無料で園内を案内しています。

小職は、親しいガイドさんと共に、残雪が残るトレッキングやいにしえの羽黒山信仰の玄海古道、人生で初めて１月の大雪のころのスノーシュートレッキングを体験するなど貴重な機会に恵まれました。

【５月ブナ林の根あきと残雪】

【８月姥が岳から月山へのトレッキング】

●山形新幹線

山形県の各地に行くには、山形新幹線つばさが便利な交通手段ですが、私は通算１０年９か月の赴任期間中、数えてみたら約３３０回乗車しました。そこで、「車内販売のカリスマ」茂木 久美子（もき・くみこ）さんについて触れたいと思います。

茂木さんは 1980 年（昭和 55 年）天童市生まれ。98 年に山形城北高校卒業後、日本レストランエンタプライズ（ＮＲＥ）入社。山形新幹線の車内販売員時代の 2005 年、東京ー山形の１往復における１人あたりの平均売上が 7～8 万円に対し、1 往復半で 50 万円の売り上げを達成。その群を抜く売上が評価され、2006 年 10 月には、最年少で JR 東日本管内の車内販売員約 1300 人の中で 3 人しかいないチーフインストラクターに抜擢される。「車内販売のカリスマ」として、テレビや新聞など様々なメディアで取り上げられ、車内販売員、そして後進の指導を行ってきた。2012 年 5 月からは、車内販売員を引退、NRE を退社し、講演・セミナーを中心に活動を展開する。次に茂木さんとのインタビュー記事を以下に転載します。

決め技は「釣り銭」 ――それにしても他人の７倍も売るって凄い！

「つばさの東京ー新庄間は約３時間半。この間、ワゴンを押すのは普通だと３往復ですが、私は７往復します。『絶対に売り切るんだ』っていう気持ちを持ち続けて、最後の最後まであきらめない」

「往復回数を増やすテクニックとしては、釣り銭を早くお渡しすること。お客様ごとに釣り銭の額を予想して、ポケットの中に小銭を種類別に分けて、指の感覚で選び出します。お札をもらうと同時に釣り銭をお渡しすることでスピードアップにつなげてます」

コミュニケーションも重要――見たいなあ、その目にもとまらぬ早業。

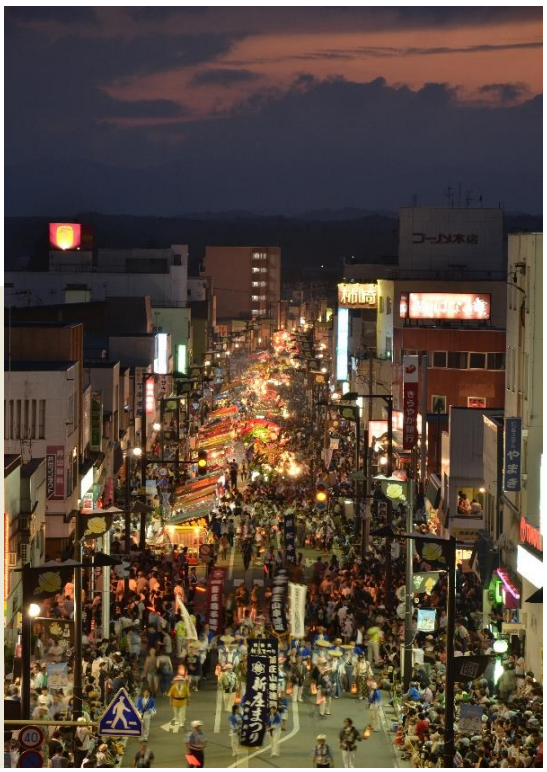
「お客様とのコミュニケーションも大切。販売の時だけじゃなくてトイレの場所とか時間とか、何でも話かけてもらえる雰囲気づくりを心がけてます」、「私、昔から方言がコンプレックスだったんですが、この仕事を始めてから方言がすごく役に立ってます。」

以上、「車内販売のカリスマ」茂木 久美子皆さんの仕事に対する姿勢について、新庄市での講演会で直接、お話しを聞いて感動した私でしたが、皆さま山形新幹線に乗車される機会がありましたら、今でも茂木さんの遺伝子を受け継いでいる販売員の方が２～３名は居ますので、是非、探してみて下さい。見分け方は、一杯のコーヒー買っても笑顔でゴミ捨て用の袋をくれます。

●新庄まつり

新庄まつりは、全国的に知名度は高くはありませんが、2016 年 11 月 30 日、「山・鉾・屋台行事」のひとつとしてユネスコの無形文化遺産に登録されました。262 年の歴史を持つ新庄まつりは、1755 年（宝暦５年）、いわゆる「宝暦の大飢饉」により、新庄藩は未曾有（みぞう）の大飢饉（だいききん）に見舞われ、領内では多数の餓死者がでた。新庄藩 5 代藩主の戸沢正諶（まさのぶ）は、領民に活気と希望を持たせると共に、豊作祈願をするため、新庄城(現在の最上公園)内に現存する天満宮（戸沢氏の氏神）の祭典を行った。これが新庄まつりの起源と考えられている。現在の山車の原型といえる飾り物・花笠鉾などの行列が当時から存在していると考えられ、祇園祭の影響が見られると言われています。

【新庄まつりの山車（だし）と山車行列、260 年祭のポスター】



●今村翔吾著作：羽州ぼろ鳶組シリーズ

この物語の舞台は江戸期新庄藩。新庄市に非常にゆかりのある物語となっています。主人公の松永源吾はかつて江戸一番の武家火消しとして活躍していましたが、同僚からの嫌がらせや謀略によって浪人となってしまいます。そこへ壊滅状態に陥った羽

州新庄藩の火消し組織を再建するという頼みが舞い込み、一癖も二癖もある登場人物や火消しの仲間たちと共に、この火消し団が徐々に成長していき結束を強めていく様子が生き生きと描かれます。

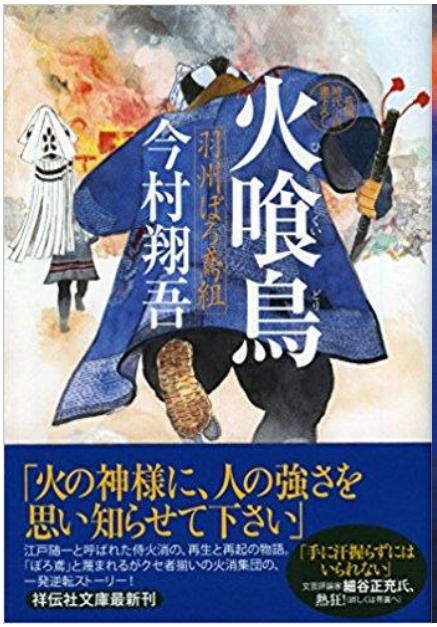
著者の今村翔吾さんは東日本大震災のボランティアに参加した際に、江戸時代の大飢饉によって壊滅的な被害を受けた新庄藩の領民に希望と活気を取り戻すために始まった新庄まつりの起源を耳にし、大変感銘を受けこの物語を執筆しようと決意されたそうです。

天災とも人災ともなりうる「火」に立ち向かう主人公たちのひたむきな姿と北町奉行所、長谷川平蔵などが登場する勧善懲悪のスカッとする筋立てで、被災者に限らず、日々いろいろな困難に立ち向かう私たちの心にも響くものがあるはずです。

この羽州ぼろ鳶組シリーズは、2017 年２月①『火喰鳥』（ひくいどり）を皮切りに、②『夜鳴鳥』（よなきがらす）、③『九紋龍』（くもんりゅう）、④『鬼煙管』（おにきせる）、そして今月５月には⑤『菩薩花』（ぼさつばな）が発刊されました。

小説の作者である今村翔吾さんは、昨年、10 月に新庄市にお越しになり、「羽州ぼろ鳶組シリーズ」の座談会を開き、また、今年１月東京九段のホテルグランドパレスで開催された「新庄応援隊」新年会に参加され、サイン会を行うなど新庄市の強力なサポータであります。皆さまも是非、まずは第一巻の①『火喰鳥』をお読み頂き、「羽州ぼろ鳶組シリーズ」をご愛読下さい。

【① 火喰鳥』の表表紙】



【②『夜鳴鳥』の表表紙】

私は、3月 31 日に新庄から東京へ向かう山形新幹線つばさに乗車して、感傷的な気持ちと久々に東京へ戻って仕事が出来る安堵感が心の中に複雑に交じり合った感慨を持ちました。その後、新庄で知り合った人からフェースブックを始めないかと勧誘を受け、４月からフェースブックを始めましたが、“ともだち”から配信される山形、新庄最上の情報量とスピードにはたいへん驚かされ、私が新庄で暮らしていた時に知らなかった情報が入ってくるようになり、ＳＮＳの凄さを実感しています。

しかし、ＳＮＳでも新庄最上の綺麗な空気、水、美しい自然など自分の目、耳、鼻、皮膚、味覚など所謂“五感”（視・聴・嗅(きゅう)・味・触の五つの感覚）を直接、感じることは出来ないので、私が新庄に住んで通算１０年９か月の間、直接、逢った人々、行った場所で得られた生身の経験は得難い感覚であったと思います。

東北通信第一号で記載しましたように、平成も 30 年を経過し、インターネット、インスタグラム、電子決済、ビットコインなどの新しい潮流を肌で感じ、U ターン。I ターンで都会から新庄に戻ってきた若者と話をすると「新庄に無いものを探しに都会に行ってはみたものの、実は自分の一番大切なものは家族、友人、綺麗な空気、水、美しい自然など自分にとって身近なものが如何に大切かやっと分かった。」メーテルリンクの“青い鳥”のように自分の一番大切なものは、実は、一番身近なふるさとにあった。“無いもの探し”とは決別出来た。上智大学理工学部経営者の会でも、卒業生として大学や在校生に何が出来るか今月、27 日はＡＳＦが開催され、当日、経営者の会でも 11 号館 311 教室でポスター展示をしますので、是非、母校にお越し下さい。

-以　上-